臺灣總督府
臨時情報部

部報

昭和十三年八月十一日

臺灣行進曲（國民精神總動員本部）
南支に於ける外政（一）（總督官房外事課）
勤勞奉仕作業（臺北帝國大學）
地方情報（州・廳臨時情報部）
海外情報（臨時情報部）
附錄 事變日誌

第三十四號

昭和十二年九月二十日第三種郵[illegible]
昭和十三年八月十一日[illegible]
一日、十一日、廿一日發行）

台灣行進曲

歌へ！

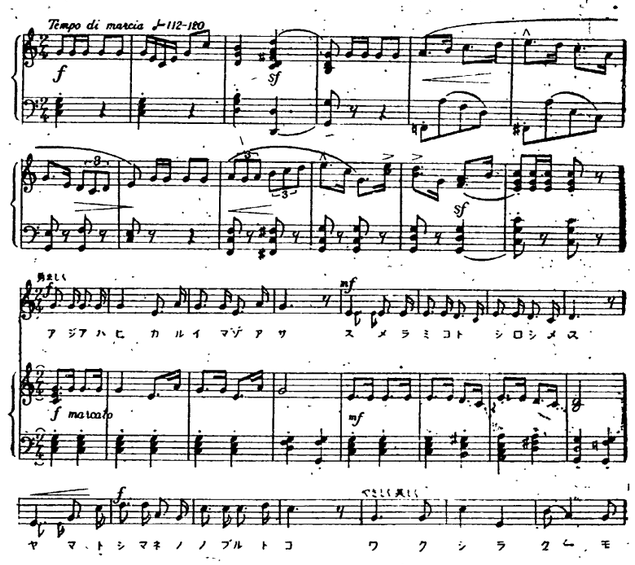
國民精神總動員本部

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

臺灣總督府國民精神總動員本部選定

臺灣行進曲

作詞　三栗谷櫻
作曲　陳炎興



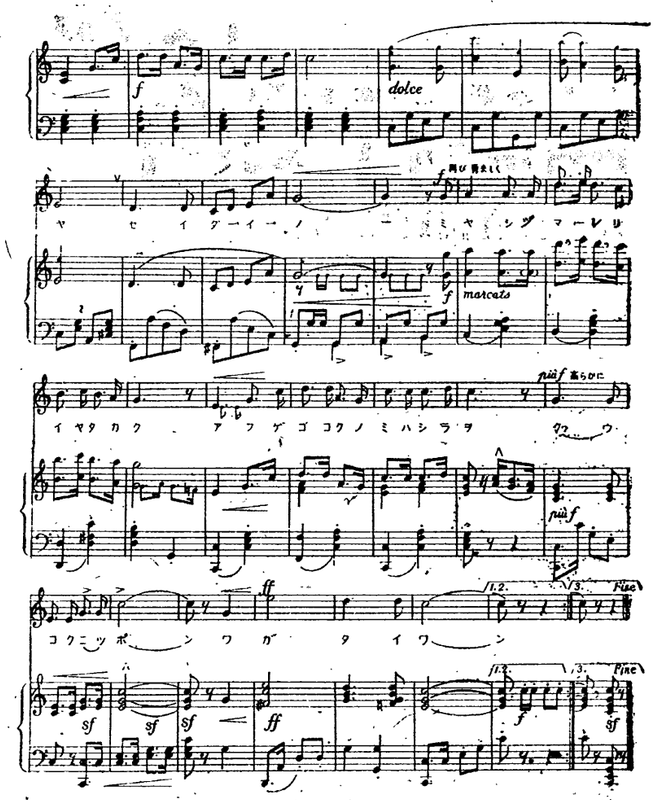
〔註〕伴奏中の小音符は省略することを得。

三

澎湃として　躍りゆく
いざ日の丸を　高らかに
揚げよ皇道　布け平和
躍進日本　わが臺灣

三

われら島民　いざ
大御代の　光榮ある偉業
承け繼きて　強く正義に
生きんかな　あゝ萬世の
大君に　水潔く草むす
殉忠の　赤誠かたく
まもれこゝ　神州日本
わが臺灣



二

臺灣行進曲

一

亞細亞は光る　いまぞ朝
すめらみことの　治しめす
大和島根の　伸ぶる處
湧く白雲や　靖榮の
宮鎮まれり　いや崇く
仰げ護國の　御柱を
皇國日本　わが臺灣

二

輝く御稜威　地に溢れ
わかき民草　茂り合ひ
文化の潮も　みんなみに

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

南支に於ける外政（一）

總督官房外事課

本稿は八月八・九日に亘り本府加藤外事課長が茶北放送局より放送せる講演の概要である。

その一

私は「南支に於ける外政」と題しまして、二回に亘る講演を試み度いと思ひます。南支那の外政と申しましても、現在揚子江沿岸を除く南支の大部分は、國民政府の勢力圏内に在りまするが故に、自然國民政府の外交を述ぶる樣な事になりますが、然し南支は國民政府の發祥地であり國民政府はつまり南支の政府であると云へまするし其上南支は我臺灣と接近し政治的に經濟的に密接な關係があり、且亦イギリス、フランスなどの諸外國とも緊密な關係にあると云ふ事實に鑑みまして、南支を中心として見た過去の外交關係を、一應調べて見る事も無益ではないと考へるのであります。そこで、大體項目を三つに分け、第一に國民政府と南支との關係、第二に南支を中心として見たる支那と諸外國との關係、第三に今次支那事變と國民政府の外交と云ふ三項目に付て申述べやうと思ひます。但しこの講演の主眼とする處は、自然支那事變を繞る支那の外交に在るのでありまするから、以上の諸項目を通じ此の點を明かにしたいと思ふのであります。

第一に國民政府と南支那との關係に付て沿革的に御話を申上げます。御承知の通り、國民政府は廣東で生れ次第に育つて現在の政府となつたのであります。尤も國民政府の基礎である國民黨は日本で芽ばへたのであります。即ち國民黨の前身である同盟會と云ふものは、孫文が日本亡命中明治三十八年頃、清朝顚覆を目的として支那留學生を、集めて東京で創立したものであります。この同盟會が、民國元年革命勃發後、北京に於て改組せられて、國民黨となつた。初め國民黨は、袁世凱大總統時代國會に於て多數を占め袁世凱の權力を抑へんとしたが、却つて、袁世凱の爲め國會は停止せられ、國民黨は迫害を蒙つた。そこで、南方國民黨員は、遂に袁討伐軍を起しましたが、忽ち鎭壓せられ、孫文等は日本に亡命致しました。孫文等國民黨員の日本亡命中、本邦政客側では、頭山滿翁とか、亡くなられた犬養さんのやうな人々が此等南方志士に頗る深き同情を表し、物心兩方面の支持を惜まなかつたのであります。國民黨領袖と本邦志士との間には、以心傳心相通ずるものがあり、情誼の美はしきものがあつたのであります。然るに國民黨が嬲て我日本と仇敵の間柄になつたとは感慨無量思ひ半ばに過ぐるものがあるのであります。

之も畢竟國民黨員が日本の眞意を了解せず、支那の統一をあせつて、共產黨の力を借り、排日抗日を政策の根本方針と致しました結果でありまして、そこへ又日支兩國を離間せしめて利

益を得んとする外國の策謀も大いに加はつた爲であると云はねばなりますまい。民國四年即ち大正四年袁世凱の帝制「クーデター」失敗の後孫文は上海に在る國民黨員を率ゐて南下し、廣東に軍政府を組織して大元帥となりましたが、大正十年頃福建に在つた陳炯明が廣東軍を率ゐて廣州に來るや國民黨の勢力も振ひ、軍政府は非常國會を召集して孫文を臨時大總統に選擧し、北京外交團の承認を求めたのであります。然し外交團は相手にしなかつた。間もなく孫文と陳炯明との間は疎隔し、廣東に於て兩者の軍隊相對峙するの狀態となりました。此頃孫文は北方の張作霖及段祺瑞と提携し、直隷派たる北京政府を倒さんと企ててゐたのであります。大正十二年廣東政府は廣東に於ける關稅收入の一部を接收したいと外交團に要求し、若し承知しなければ稅關を占領すると云ふ事を通告したのでありますが、外交團は之を拒絶し武力を以て阻止することに決定して、日英佛三國軍艦を廣東に集中しましたので孫文も其の目的を達することが出來なかつた。當時吳佩孚は北方にて隆々たる勢力を以て武力で自己の地盤を固めんとしつゝあつたのであります。事情かくの如く、孫文の周圍は甚だ落寞たるもので、蓋し心中索然たるものがあつたでありませう。孫文は中國統一の業を遂げんには無力では駄目であるから、第一に外國の力を藉らねばならぬ事、第二に强力にて規律ある國民黨直屬の軍隊を養成せねばならぬ事を考へたのであります。その時彼の頭に浮んだのがソ聯邦であります。國民黨は民國十三年廣州に大會を開催して三民主義に基く主義綱領及國民政府組織大綱を決定すると同時に容共政策を採用して、國民黨と共產黨との合作を容認したのであります。此より後國民黨の組織はソ聯邦の制度に倣ひ、中央執行委員制を採用して、之に獨裁權を附與せる結果、著しく共產黨

の勢力を增大するに至つたのであります。孫文は容共政策に依つてソ聯邦の援助を期待したのであるが、廟を藉して母家を取られるやうな事になりました。又軍隊養成に付ては黃埔軍官學校を創立し、蔣介石を校長として生徒に軍事敎練を施すと共に、三民主義に基く革命思想を鼓吹したのである。かくてこの士官學校生徒三千を中堅とする國民黨直屬の軍隊が出來まして、蔣介石は此軍隊を以て陳炯明軍を破り、又廣西及雲南軍を擊破して、其の精鋭を認められたのであります。第二奉直戰起りまするや孫文は豫ての約に從ひ北伐に上らんとしたのであるが、恰も己に吳佩孚の敗るるや、段祺瑞執政の招に應じ、時局收拾の爲め北上したが、不幸病を得て民國十四年北京に客死致しました。孫文の死後國民黨は汪兆銘と蔣介石の手に繼承せられ、汪は黨務、蔣は軍事と云ふやうに、黨の執力を握つたのであるが、國民黨大會を開催して國民政府を組織し、汪兆銘は行政院長となり、蔣介石は軍事委員となり、而して行政各部內に、國民黨員の外共產黨員を容れ、而もボロジンを政府最高顧問としガロン卽ち今のブリュヘル元帥を初め幾多のソ聯將校を顧問として、配置したのであります。當時蔣介石は廣東軍の實權を握り、陳炯明軍を廣東より驅逐して、威望隆々として部內を壓するものがありました。民國十五年五月國民政府は愈北伐を開始するや、到る處破竹の勢を以て北進し、七月には旣に長沙を陷れたが、茲に國民革命軍總司令部を設置して、蔣介石を總司令に任じました。そして國民政府も廣東より武昌に移轉しました。そこで國民政府の名を以て政策を中外に宣言致しましたが、就中軍閥の打破、打倒帝國主義及國權回復を以てその大綱としたのであります。然るに當時國民政府內には、共產黨勢力の跋扈著しく、激越なる手段を以て、社會革命と打倒帝國主義とを

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

斷行せんとする意向が強くなり、外交部長陳友仁の如きは今にも漢口英國租界を、武力を以て奪回せんとの氣配を示しました。英國は之が爲め漢口租界還附の協定に調印致しましたが、斯樣な事は益々彼等の氣勢を增長せしめ、延いては不平等條約の一方的廢棄は勿論、排外運動の激發、外國居留民に對する危害等、遂には容易ならぬ外國との紛爭を惹起すべき事態を誘致するの虞がありました。そこで、蔣介石は、共產黨の排擊を決行し、國民政府を國民黨穩健派を以て改組し、之を南京に移すこととしたのであります。汪兆銘一派の武漢派は唐生智軍を擁して、蔣介石と對立し、他方共產黨はテロ行爲に出て、湖南、江西、廣東、福建一帶に於て暗黑政治を行ひ、地方豪農にして土豪劣紳として殺戮せらるゝもの幾何なるを知らなかつたのであります。又彼等は國民政府の入城前、南京を掠奪して總ての外國人に危害を加へ、所謂南京事件を惹起せしめた事は周知の通りであります。汪兆銘派と蔣介石との對立は、馮玉祥の調停により、汪が部內より共產黨を驅逐して、南京派と合流することゝなり、蔣介石は一時下野して漂然と本邦に來遊したのであります。然るに民國十六年十二月再び迎へられて、北伐革命軍總司令に任ぜられ、何應欽を前敵總指揮として、直ちに北上、翌年二月には開封に於て蔣、馮、閻の三巨頭會議を開き、共同北伐を誓約したのであります。大體蔣介石は津浦線、馮玉祥は京漢線、閻錫山は京綏線に沿うて兵を進めることとなりましたが、濟南に於て蔣介石麾下の軍隊が日本派遣軍と衝突し支那軍は邦人に對し殘虐なる暴行を爲せる事は濟南事件として今尙記憶に新なる處であります。かくて右事件も大事に到らずして、北伐は進行し、五月末には滄州、保定等相次いで陷落し、雪崩を打つて北京に逃げ込んだ揚宇廷、張學良等の强き勸告に依り、張

作霖も大勢非なるを悟り、涙を呑んで歸關するの止むなきに到つたのでありますが、奉天を枕に橫死を遂げたのも其時の事であります。

斯くて北伐は完成し次で同年卽ち昭和三年十二月張學良が我方の警告に耳を藉さず、遂に國民政府に服從して青天白日旗を揭げ、茲に全國統一の事業はまがりなりにも完成したのであります。そこで國民政府は南京を首都と定め、對外宣言を發して、國民黨綱領に基き、不平等條約の撤廢、外國駐屯軍隊の撤退、租界回收、關稅自主權の回復等國權の回收を聲明する處ありました。此の頃よりして英國は國民政府に對し好意政策をとることになり我國も時勢に順應して日支親善政策を進める事となつたのでありますが、國民政府の排日政策は此時より胚胎したのであります。次に國民政府の全國統一後に於ける、中央と南支地方政權との關係を見まするに、廣西派の巨頭李宗仁、卽ち今回の徐州會戰の總指揮として敗戰の憂目を見、その部下の廣西軍は殆ど支離滅裂となつたのである所の彼李宗仁は北伐に第四集團軍司令として廣西軍を率ゐて參加して功あり、爲めに國民政府より武漢政治分會主席に任ぜられ、湖北、湖南、廣西、廣東の地盤を擁して一時得意であつたが蔣介石の策略に乘ぜられ中央反抗の擧に出で却て廣西軍は中央軍の爲めに擊破せられ湖北、湖南を失つたばかりでなく、廣東に於ける勢力も失ひ、土地狹隘而も豐かならざる廣西十省にのみに據るの止むなきに至りました。爰に民國十六年四月蔣介石が共產黨彈壓を爲すや、共產黨及紅軍は湖北、湖南、江西、福建、廣東一帶に橫行、「ゲリラ」戰を展開したが、廣東に於ては一時共產黨は廣州を占據するの事態を現出しましたが忽ち陳濟棠軍に擊退せられました。然し福建省は共產黨の牙城となり朱德、毛澤東等の共產軍

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

が之に據つてゐました。民國二十一年頃蔡廷楷卽ち上海事變で有名な彼は十九路軍と共に蔣に追はれて福建省に來ましたが、十九路軍の驍將も今や此等共產軍を抑へることが出來ず、遂には廣西派の李濟琛に使嗾せられて之等共產黨と握手し、福州に反中央人民革命政府を樹立するに至りました。蔣介石は蔣鼎文をして之が討伐に向はしめて之を潰滅せしめ、更に共產軍討伐を續行せしめた結果、紅軍は江西、湖南等を轉戰逃走して西遷し、遠く甘肅方面に遁入するに至りました。

そこで南京政府は陳儀を福建省主席に任命して、茲に中央の勢力を及ぼしました。又廣東に於きましては民國二十年蔣の大總統就任問題に關し、胡漢民と蔣介石の意見對立し、蔣は胡漢民を南京に監禁するに至りましたから、廣東派は大に憤激し廣西派と妥協して廣東國民政府を樹立しました。然るに滿洲事變の發生と共に南京、廣東兩派は急速に妥協を遂げ汪精衞、孫科、黃紹雄等は廣東政府を解消して南京に赴き蔣介石と合作する事となりましたが胡漢民は獨り蔣介石、汪精衞等と意見合はず香港に止つて李濟琛、李宗仁、白崇禧等と結んで中央に對立してゐました、中央は湖南、雲南、貴州、江西、福建等に大軍を入れて兩廣を包圍し且雲南、貴州等の中央勢力を强化し亦浙江閥及香港に於ける英國勢力を利用して廣東財政に壓迫を加へしめた。一九三六年五月胡漢民の永眠により西南派は大打擊を受けました。陳濟棠、白崇禧等は京津地方に於ける日本侵略を名として抗日開戰を呼號し中央に對し軍事行動を起しましたが逆に買收切崩しに依り忽ち窮地に陷り陳濟棠は沒落し之に代り陳の部下にして中央に買收せられ歸順せる余漢謀は第四路軍總司令兼廣東綏靖主任に任ぜられまして廣東の實權を握ることとなり、斯くて南支一帶は蔣介石の統制下に服することとなつた譯であります。

以上は國民政府と南支との關係及國民政府に依る全國統一の經緯の大要を申述べたのでありますが、國民政府が容共政策つまり共產黨と提携して以來共產黨の勢力は漸次國民黨內に浸潤し從つてその遺口はコミンテルンの方針に從ひ社會革命、工會の組織、打倒帝國主義より排外運動に及んで過激なる手段に訴へるに至つたのであります。先に申しましたやうに國民政府の勢力が未だ單に兩廣地方に限られてゐた時代には其の鋒先は先づ英國に向けられ民國十四年卽ち大正十四年六月には六千の軍官學校生徒が鐵砲を擔いで九龍英國租界の英國警備兵に對し排英「デモ」を行ひ、兩者發砲死傷を惹起するに至り之を期として排英思想は南支一帶に瀰漫し英國は遂に二萬の軍隊を上海に派遣するに至つた。右排外思想は國民政府が民國十六年以來共產黨清掃工作を行つたからと云つても國民黨及國民黨軍隊より除去せらるべきものでなく殊に國民黨は學生、工會等に排外思想を皷吹し國民黨勢力の及ぶ處卽ち排外思想の種子を播き散らしたのであります。そうして始めは排英であつたものが國民政府の全國統一後は我國に向けられて參りました。そうして此排外思想が國民黨の威力が關外滿洲に及んでからはさなきだに日本を仇敵視せる張學良は日本の權益を事每に阻止、遷延、侵害し、民衆軍隊の排日を强化し排日は抗日となり抗日より侮日となり我國も勘忍袋の緒をきらし遂に滿洲事變の激發となつたのであります。滿洲事變後全支の排日運動及「ボイコット」は益々激化し國民政府は一九二九年以來關稅自主權を回收せるを機として日本品を目的として著しく稅率を引上げ、其他日本商品に對する差別的待遇を設定してその輸入を妨害し一方人民に對しても始めより徹底的排日敎育と排日

アジア経済研究センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

宣傳を爲す等過激なる全般的排抗日政策を斷行し亦北支よりは絶えず、滿洲國を脅威するの工作を續け他方歐米諸列强を利用して反日及反滿洲工作を積けるに至つた。茲に於て帝國は北支殊に京津地方が滿洲國民の治安延いては日本にとり重大なる關係あるに鑑み南京政府をして京津地方に特殊政權たる冀察政權を樹立せしめ宋哲元を首席として北支に於ける一定範圍の自治權を附與せしめまして日本との交渉に當らしむ事としたのであります。一方廣田外相は所謂三原則を基礎として日支防共協定と經濟合作を南京政府と交渉する處あり、初め蔣介石は一面抗日を標榜しながら他面に於ては對日戰爭を極力回避せんと策して日支交渉を進めたのでありますが漸次其の態度を變じて遂には夷を以て夷を制するの策に出で徒らに交渉を遷延してその間全く誠意の見るべきものなきに至つた。殊に一九三六年十二月の西安事件即ち張學良の蔣介石監禁事件に於て張は釋放條件として共産黨員周恩來（彼は今漢口國府間に於て采配を振つてゐる）その周恩來の示唆に依つて對日即時開戰及容共政策の採用を蔣介石に强要して之に同意せしめたと云はれ此事件を契機として爾來蔣は日支交渉を停頓せしめたのみならず、冀察政權をして對日交渉を斷念せしめ宋哲元に援軍、武器、軍費の補給を約して對日開戰を强要したのであります。宋は之に同意することを躊躇したけれども部下二十九軍の小壯將校は國民黨の息がかゝり抗日意識に燃えて且日本組し易しとの偏見にとらはれてゐたから露骨に挑戰的態度に出で最早宋の威令は部下に徹せず、遂に昨年七月七日の盧溝橋事件を導火線とし、日本の不擴大方針に拘はらず日支抗戰は全面的進展を見るに至つたのであります。

本日は此點迄に致しまして明日其後を申上ぐる事と致します。

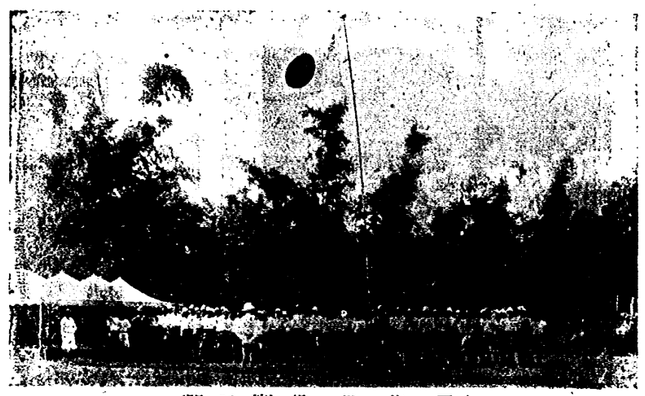
勤勞奉仕作業

臺北帝國大學

作業狀況（第一班）

勞作勤勞の問題は決して新しい問題ではないが、わが國教育の正統派ともいふべき書本教育の風潮はすでに一つの傳統を形づくつて、これに伴つて生じた色々の弊害にもかゝはらず容易に動かすことのできない一種わが教育界のイデオロギーを作るに至り、茲に教育は全面的に行詰りを生じ、所謂教育の貧困を叫ばしめるに至つたのである。しかるに偶々支那事變の勃發は社會情勢の急激なる變化を誘致し、それに伴つて勤勞教育の問題は今や切實なる國策の問題となるに至つた。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



國旗掲揚（第二班）

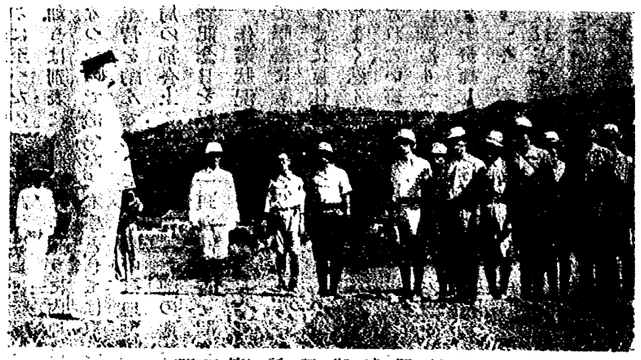
本學に於ても夙に茲に着目して、强固な意志力と頑健な體力とを有する所謂腹のある大國民たるの資質を錬成して國家が直面せる使命の解決に眞に協力し得る人材を養成する爲めには勞作勤勞の教育は最良の方策なりと考へこれを如何なる方法によつて實施するかゝ一つの懸案となつてゐたのであつたが時あたかも皇紀二千六百年を期して臺灣神社の御遷座並に神苑擴張の御造營が行はれるとの趣を知り、本學としても御膝元に在る最高學府としてこの千載一遇の盛事に些かなりと奉仕の誠を致し、敬神崇祖の精神を顯はすとともに本島の守護神として領臺以來彌榮えに榮え來つたわが臺灣の發展を加護し給うた神靈への奉謝を捧げることができ、兼ねて勤勞教育の成果を收めることができればこれ程有意義なる行事はなからうと考へてゐた次第であつた。

この精神は圖らずも學生生徒の間にも起り六月初旬多數の學生有志から學生課長に宛てゝ御造營に奉仕できるやうな仕事があればやらせて戴きたいとの希望を申し出

るに至つたので學生課では更に一般に希望者を募つたところ意外に多數の希望者を得、農林專門部の如きは別表にも見られるやうに內地修學旅行中の學年を除いては殆んど全員が希望するといふ結果となつたのであつた。本學としては取あへず當局にこの希望を申し述べ成るべくならばこの學生生徒の至情を酌んで戴いて御本殿の敷地に鍬をそへさせて戴けないであらうかとお願ひしたのであつたが當局の都合上この度は外苑豫定地の地均し作業に奉仕することに決定し、全員を四班に分ち七月七日事變記念日を以て第一班から作業を開始する案を立て直ちに參加學生生徒に通知したのであつた。

作業狀況は左に表示した通り萬事實によく進行した。酷暑の折馴れない作業をやる者も多いことと て學醫にも來場を乞うてあつたが一名の病人も出ず作業の具體的な仕事や、したがつて日程の決定がすでに夏休みに入つてからであつたにもかゝはらず、學生生徒が實習その他の關係から生じた不便をもよく忍んで所定の作業を全うし、最初の希望者以上の人員の出席した班さへあつたことや、作業になれない班は馴れない班として極めて眞摯敬虔な態度で、馴れた班は馴れた班として極めて整然たる作業振りで、鍬をとつては孜々默々として、テントに歸つては和氣靄々としてよく集團作業教育の眞價を發揮したことはまことに賴もしくもまた純眞な青年の心情を窺はせ、世評ややもすれば「學生狩り」や「青白きインテリ」等の言葉で今日の學生が時局の認識を缺いてゐることを痛罵するのであるけれどもかゝる世評が極めて皮相な觀察であり、少數の限られた或る種の學生に對して妥當するにすぎないものであることを一入感じさせられたのである。

國旗掲揚、國歌齊唱、皇居遙拜といふ毎朝の行事が、合法性や科學性ばかりに取り憑かれて機械化



總督閣下御訓話（第三班）

されがちな學生の頭に如何に強い國民的精神を振起せしめたことであらうか。その他勤勞愛好の精神を涵養することにおいて、相互の親睦と協同的精神とを養成することにおいて、健康の增進と體位の向上において、また職員と學生生徒との精神的融合において等々、今回の奉仕作業はまことに本學未曾有の成果を收めたものであつた。殊に學生生徒の純情が總督のもとにも聞え、態々御來場の上激勵の御訓話をさへ賜つたことはまことに破格の光榮として永く本學の忘るる能はざるところである。本學としては今後ともこの集團勤勞作業教育の趣旨を愈々徹底せしめ、國家有用の人材を養成すべき大學教育の使命を全うし社會の期待に背かざらんことを期してゐる次第である。

一、作業次第

1　臺灣神社參拜（但し各班初日に限り行ふ）

2　國旗掲揚

3　皇居遙拜

4　作業

二、作業班別及參加人員

班別	部別	學生・生徒參加延人員	同上職員	日時	備考
第一班	文政、理農學生 醫專生徒	二九八	四九	自七月七日至同十一日 午前八時—正午	竹田宮大妃殿下奉送のため十日は休業し十一日午後實施せり
第二班	農專生 農學林學一、二、三年生徒	三〇〇	五五	自同十一日至同十六日 午前八時—正午	農專農學二年及林學三年生徒は內地へ修學旅行中に付參加せず
第三班	醫學部學生	二一七	四五	自同十七日至同二十一日 午前八時—正午	
第四班	農專生徒 農學一年	一四八	七三	自同二十四日至同二十六日 午前八時—正午	農專實習の都合により豫定日を變更し二十四、五日兩日は午後も實施せり
合計		九六三	二二二		

三、作業實績

總坪數　四千九百三坪餘

尙ほその他の勤勞奉仕作業としては八月一日から五日まで醫學部學生有志が八月六日及び七日は醫學專門部生徒有志が每日十名宛臺北陸軍病院へ赴くことになつて居り、農林專門部に於ても生徒の多くは歸省後鄕土に於て夫々奉仕作業を爲すことになつてゐる。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

地方情報

州・廳臨時情報部

支那事變に關し執りたる措置

臺南州臨時情報部

一　街庄長懇談會の開催と銃後業務の推進指導

晩近時局の推移は愈々國民の自發的なる精神的緊張と物質的支持とを要望するの秋各般の銃後業務の經營亦益々繁劇を加へ就中國民貯蓄の奬勵、物資統制計畫の實踐、國民總動員運動の强化等大に銃後國民の決意を新にし進んで積極的、實質的なる活動を爲さしむると共に皇民化の促進を圖らしむることの緊要なるに鑑み地方行政の第一線に立ち一般民衆と接觸し之が指導誘掖に任ずべき街庄長に對し一層時局並に國策に透徹せしめ以て島民國家報國の實踐を期せしむべき目的の下に昭和十三年七月二十八、九日の兩日嘉義市公會堂に於て州下街庄長懇談會を開催せるが參會者百餘名に達し遺憾なく銃後業務の推進を期する處ありたり。

而して協議事項たる街庄吏員の皇民化促進運動に關しては全會一致の贊同を得たる外吏に之が實行の徹底を期すべく委員を擧げ左記宣誓文を作製、嘉義神社の神前に宣誓する所ありたり。

宣　誓

本島が金甌無缺世界に比類なき大日本帝國の領土となりてより星霜を閲するこゝ茲に四十有三年此の間當局は一視同仁の　御聖旨を奉戴し本島民の寧康を確保し慶福を增進すべく努力せられ今や本島の庶政大に整ひ百般の文物制度燦然として備はり嘗ては蠻區と稱せられたる本島をして母國と些かも遜色なき樂土と化するに至り世界殖民史上其の類例を見ず然りと雖も精神文化に至りては未だ之に併進し得ず甚しく懸隔あるを遺憾とす。

今や時局の推移に伴ひ國民精神總動員運動の全面的躍進と共に本島民衆亦大に國家意識に燃えつゝあるの秋一般民衆と接觸し之が指導誘掖に任ずべき我等街庄職員は現下の時局を眞劍に認識し今回の事變を契機とし益々島民の國體觀念を明徴にし國民精神を涵養し大に皇民化の促進を圖り戮力協心勇奮自勵以て一視同仁の聖恩に對へ奉らんことを期す。

仍て左の事項は本島の現狀に鑑み喫緊の急務なりと信じ茲に全州下街庄吏員の決意を新にし以て之が徹底的實行を誓ふ。

一　我等街庄職員は各家庭の國語常用化の徹底を期す

一　我等街庄職員は各家庭改善の實踐を期す

右宣誓す

二　國民心身鍛錬運動の實施

國民精神總動員の趣旨に則り心身を鍛錬して旺盛なる精神力と强靱なる身體を育成し以て銃後國民の務を全ふすべく國民心身鍛錬運動を實施することゝせり。

三　全臺灣ラヂオ體操の會開催

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

昭和八年以降毎年實施し逐年優秀なる效果を收め來りつゝある所なるも本年は特に時局に鑑み健康報國、國民精神作興の意味に於て國民精神總動員本部、文敎局、遞信部及臺灣放送協會共同主催の下に八月八日より八月十七日迄十日間實施のことゝなりたり。

四　非常時局と納稅精神の發揚

昭和十三年七月二十五日を納期限とせる營業稅、營業稅附加稅、戶稅、特別營業稅、雜種稅竝に市街庄稅は之が調定總額二百四十三萬八千餘圓に達したるも關係當局者の銳意納稅精神の發揚に努めたるに一般納稅者が非常時局を認識し納稅報國の赤誠を披瀝したる結果は臺南、嘉義兩市を除く外十郡六十六街庄悉く完納し徵收步合金額九九、六%、人員九九、五%の好成績を擧げ前年同期に比し金額に於て〇、六%人員に於て〇、二%の向上を示し非常時財政の運營上遺憾なきを期せしめたり。

五　戰死者慰靈祭の參列
竝に遺族の弔問

昭和十三年七月三十日午後二時川村知事は六月二十九日彭澤附近の戰鬪に於て名譽の戰死を遂げたる故陸軍步兵軍曹後藤晉氏慰靈祭に參列後引續き故陸軍步兵上等兵升田正男氏の遺族を弔問する所ありたり。

尙知事は昭和十三年八月一日午後三時六月二十四日香口の戰鬪に於て名譽の戰死を遂げたる故陸軍步兵伍長森藤福男氏の慰靈祭に參列せり。

六　九江占領と祝電の發送

昭和十三年七月二十七日川村知事は長江の最要衝九江の攻略に際し州民を代表し及川支那派遣艦隊司令官及波田、佐藤、高橋各部隊長に對し左記祝電を發送せり。

「漢口の死命を制する長江隨一の要衝九江占領に際し赫々たる武勳を樹てられたる趣洵に感激に堪へず、謹みて御祝申上げ併せて將兵各位の武運長久と今後の御活躍を御祈り申上ぐ」

七　戰傷者の慰問

昭和十三年八月一日午後三時半川村知事は總督代理として臺南陸軍病院に七月二十八日歸還せる名譽の戰傷者川西少射以下四十五名を見舞總督よりの慰問金を傳達せり。

尙知事よりも別に金一封を贈呈慰藉する所ありたり。

勤勞奉仕隊結成式擧行

高雄州臨時情報部

今般高雄州に於ては高雄州勤勞奉仕實施要綱を定め八月一日午前九時高雄神社境內に隊長知事以下四百六十名參集し高雄州廳勤勞奉仕隊の結成式を擧行せり。

銃後の澎湖

澎湖廳臨時情報部

一　廳職員の集團勤勞作業

國民精神總動員の一端として廳職員の集團勤勞作業は毎月實施しつゝあるも七月十六日は廳舍構內三千五百坪の除草、淸掃作業の爲同日午後一時より、林田廳長以下全職員は炎天の下流汗淋漓として作業に從事し午後四時半終了せり。

二　厦門攻略部隊慰問團歸還

當廳銃後聯盟主催に係る厦門攻略海軍部隊慰問團團々長三浦馬公街長以下九名は七月九日當地出發同十一日現地着慰問の目的を達し七月十九日午後五時無事歸還せり。

三　廳職員の身心鍛練

國民精神總動員の一端として廳職員の修養に關しては本年三月各事項決定以來夫々實施しつゝあるも七月二十四日は身心鍛練日に當るを以て林田廳長以下全職員は日の丸旗當携行午前九時廳舍前出發馬公街後窟潭海岸に至り炎天下に立網に依る漁獲を爲し又海水浴を爲す等十分其の目的を達し午後二時半歸廳せり。

四　海軍病院船朝日丸慰問

海軍病院船朝日丸は七月二十六日入港に付午後二時當廳銃後聯盟會長林田廳長は愛國婦人會當廳支部林田支部長と共に鳳梨罐詰、鯛デンブ、草花、雜誌等の慰問品を携行朝日丸に至り戰傷將士を慰問せり。

五　國旗掲揚日決定

五月二十六日午後二時より廳會議室に各課長係長參集の上廳下に於ける國旗掲揚日を決定せり。

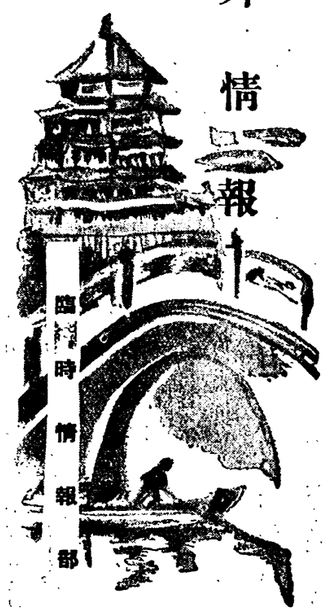
六　時局展覽會開催

時局に對應する國民精神總動員の實を擧げる爲海軍省より下附せられたる戰利品並に銃後の强化に關する資料を陳列し廳民の奮起を促し擧國一致奉公の誠を致さしむる爲國民精神總動員當廳支部及當廳國防義會主催の下に六月十八日より二日間馬公々會堂を第一會場として澎湖圖書館、馬公幼稚園を第二會場として時局展覽會を開催頗る盛會にして開催の目的を達したり。

七、小早川畫伯　―　從軍スケッチ展覽會開催

國民精神總動員當廳支部主催馬公要港部後援の下に今次事變勃發以來海軍部隊に從軍し海軍將兵の勇戰奮鬪を實寫し美術報國に精進せられたる小早川篤四郎畫伯の來澎を期し廳民に正鵠なる時局を認識せしめ國民精神涵養の一端として七月十六日午前九時より同十八日午後五時迄馬公小學校講堂に於て同畫伯從軍スケッチ展覽會を開催出品點數七十五點、觀覽人員千九百八十人に上れり。

海外情報



決死的防備も物かは何のその！

―皇軍黄梅を突破す―

日本軍に依り揚子江北岸に於て太湖、宿松等を相次いで攻略された支那軍部は、ロイテル通信員に左の如く語つた。

『支那軍部に於ては地勢の關係上太湖及宿松は攻むるに易く守るに不利であるとの說に一致し之を防守せざるに一決せり、然れども黄梅に於ては我精鋭を配置し南山東省戰線より援軍の來着を待ち決死の覺悟を以て防備に當らんとしてゐる。』

この意氣は大いに敵ながら賞めてもやりたいが、無敵皇軍の前には如何ともしがたく、遂に二日完全に占領された。因に黄梅は湖北省の要害にして同地から漢口までは直線距離僅かに三十六里、對岸の九江の陷落と共に黄梅が我軍の手に歸したことは漢口の安全感を益々喪失せしめ、更に漢口防衛の第一線たる大別山脈の西方據點は完全に崩潰するに至つた。

不安の空氣に漂る南昌

―市内は廢墟の如し―

九江占領後皇軍は尙も著々と南潯鐵路を南方へ進擊しつゝあり、南昌は極度の不安に襲はれてゐる。報道に依れば三十萬人住んでゐた市は目下多數の市民が退去し商店は閉ぢられたので廢墟の如くなつたとのことである。支那官邊では口を緘してゐるけれども市では「焦土政策」採擇の可能性に就て腹藏なく討議して居り、少くとも道路橋梁は破壞し一方又攻擊者に利用されさうなものは凡て取除くものと豫想されて居る。

南昌北方の避難民の苦境は驚く許りで多數の避難民は例へ金を持つて居ても食物も水も得ることが出來ず其他生活必需品を購入出來ない有樣である。幾千の民衆は憐れにも飢餓に倒れ病氣に脅されながらも鄕土を出て安全な方へ移住しやうとしてゐる。

一僧侶は支那兵の掠奪的行爲を憤慨し、住民撤退の跡は日本軍の爆擊の跡よりも更に荒廢してゐると語つてゐる。

「重慶移轉は武漢放棄に非ず」と如何にも支那らしい辯明

國民政府の重慶逃避はその後着々進捗し、政府各機關も殆んど移轉を完了し漢口は全く軍事都市と化した譯であるが、之に關し支那側當局は左の如く辯明した。

「政府各機關及び職員の重慶移轉を以て支那側の漢口放棄と思惟するのは大錯誤である。之は行政能率を上げ漢口防衛に便宜を與へ且つ不必要な犧牲を避けるべく市民の引揚を援助する目的で行はれたのである。各職員の引揚は八月六日を以て完了する。」と

蓋し支那側は九江陷落以來蔣政權の抗戰に對し全く期待を失つた民心が漸次離れ行くのを極度に怖れ、今又武漢放棄の止むなきに至つた際、民衆を不安の中に置くことは今後の行動に益々不利を來さんことを慮つて、かくの如き民心懐柔策に出たものと見られる。

漢口佛租界内の思はぬ金儲け

人口と云ふものは漸次に增加する性質のものではあるが、こゝ漢口佛租界に於ては、平常は一萬乃至一萬二千であつたのが、皇軍の漢口進擊が開始されて以來、急激に增加し現在では四萬乃至四萬五千となつてゐることのことである。

それは支那住民が避難して來た爲であつて、其結果として家賃は暴騰し、平時に於て月二十五元で貸してゐた部屋が現在では百五十元になつてゐる。月四百元で二部屋を一年間の契約で借りてゐた或る男は其の權利を五千元で賣つたと云ふことである。

義勇兵制が聞いて呆れる

―支那の募兵狂態―

皇軍の峻烈なる漢口への進擊に狼狽せる支那軍當局は兵員補充に狂奔の態であるが義勇兵制度とは今や名ばかりで實際行はれてゐる募兵手段は眞に正氣の沙汰とは思へない。現在四川省を始め西部諸省では專ら下層民を狙つて猛烈に强制徵兵が行はれて居り、重慶に於いても日々次ぎの樣な徵兵風景が街頭で目擊されることのことである。狩り出された憐れな苦力達は一本の細引を襟首から左の袖に通され數珠繋ぎとなつて巡警の棍棒と軍曹との叱咤に追はれ屠所の羊の如く引立てられて行く、かうしたぼろ〳〵の營養不良の見本の樣な人間が喜怒哀樂も感じないものゝ樣に彼等を待ちもうけて居る運命に向つて追ひまくられて行くのである、そして一方中央軍の憲兵は血眼になつて此の種の屑を拾ひ集めて居るのだ、失業苦力はもとより乞食さへも不具でない限り恐ろしい憲兵の眼を逃れる事は出來ないのだ、物貰りもうかうか呶鳴つて呼賣する事は出來ない、すぐ徵兵だ、そして此憲兵の「涙ぐましい」その我利慾も絶對に金持ちには及ばない、最も貧困な階級のみがその對象となつて居る、重慶の商店の店員達はまさしく中堅階級の代表者で身體も頑健だが、こうした事か兵役を免ぜられ義勇兵には怖氣をふるつて誰も應じない。

中央軍の漢口撤退

共産黨、猛烈に反對す

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

從來中國共產黨と蔣介石とは口では合作を唱へながら常に微妙なる對立的關係を有し、此度も又漢口防備問題に關し蔣介石と共產黨との間に重大なる意見の懸隔を生じた模樣である。すなはち蔣介石は彼直屬の中央軍を損ぜざらんがため日本軍が漢口に接近し來つた時は速かにこれを撤退せしむる計畫を立てゝゐたが、共產黨はこれを不當とし蔣に右計畫の撤回を迫り、若し應ぜざれば斷乎蔣との共同戰線を放棄すると敦圍いてゐる。而して共產黨は蔣があくまで直系中央軍撤退の計畫を固執する場合は孤立せる中央軍部隊はすべてこれを共產軍に編入するのみならず、共產黨宣傳力の全力を動員して中央軍兵士に呼びかけ出來るだけ多數兵士の獲得に努めるなどあらゆる手段を通じて漢口防衛の放棄を妨害するであらうと蔣を威嚇してゐる。更に共產黨はあくまで漢口死守を主張し、これら中央軍切崩しによつて得たる勢力に加ふるに全國より出來るだけ多數の共產黨員を漢口に狩集め一方漢口にある勞働者にして役に立つものは悉く拉し來つて漢口防衛陣を強化するはずで、これらをもつて一大「民衆部隊」を編成、日本軍の漢口攻略にあたつては街路の敷石をはいで堡壘とし、市街に一軒の家屋の殘る限りこれに立籠つて戰ひ續け、漢口を第二のマドリッドたらしめんと豪語してゐる。そして共產黨は右民衆部隊の漢口防禦が「マドリッドに於ける如く成功すると否とに拘はらずその結果蔣介石にとつて致命的なものとなると指摘してゐる。すなはち蔣は「漢口よりの逃亡者」となつて「統一支那の代表者」たるの資格を喪失するのみならず、國の內外と大衆の人氣を失ひ、それに引かへ共產黨は「漢口防衛者」として持てはやされるにいたるといふのである。而して右の如く共產黨が共同戰放棄を賭してまで漢口死守を主張する理由は、今日の漢口は蔣の主張する如く「單なる支那の一都市」ではなく、それ以上のものであり、かつ今日の支那民衆にとり大なる精神的價値を持つと認めてゐるからであり、斷乎たる抵抗を試みずしてこれを放棄すればその結果は支那民衆の抗日意識に動搖を來し、支那國內の士氣を阻喪せしむること大なるのみならず、支那に同情を寄せる他國の信賴をも失ふことになるとの見解を有してゐるからである。これに對して蔣介石は表面頑として自說を固持し漢口を失ふことは戰略上なんら重大意義なし、故に當初の計畫に從ひ日本軍の接近にともなひ漸次中央軍を撤退せしめ、かくすることによつて損傷を免れた軍隊を今後ゲリラ戰のために集結することにすれば結局に於いて大陣地戰を行ふよりもより大なる精神的影響力は大きいと中央軍撤退策の效果を强べてゐる。右のごとく本問題に關する兩者の意見は目下のところ全く對立してゐるので、事態は頗る重大化しつゝあるものと見られてゐる。

山東の匪賊續々歸順

—一路蔣政權打倒へ—

山東西部地區の舊山東軍その他の敗殘兵並に遊擊隊、匪賊は我が軍の隴海線確保に依つて後方を絶たれ蔣介石からも今は全く見捨てられ何等の給與も與へられず數次に亘る我が討伐の爲め逐次抗日の無謀無益を悟り皇軍の安民樂土を目標とする宣撫工作に共鳴して歸順する者續出、山東の明朗化を誓つてゐる、卽ち汶上、嘉祥及び鄆城一帶に勢力を張り部下三千餘を有する元第七路軍遊擊隊長曹景玉は部下一千を率ゐ二十四日汶上西方袁口に於て藤田部隊長の許に歸順宣誓を行ひ魯西地區民團總司令に任命された、曹は今後皇軍と協力一致、蔣政權打倒、明朗中國新政權の伸張に努力すると共に抗日匪賊討伐の第一線に起つ事を誓つた、又同地方の劉某も麾下千二百名を率ゐて二十四日歸順を申出、新政權に忠誠を誓つたが、固集及び泰安附近にある紅槍會匪も皇軍の眞意を知るに及んで續々歸順を求めその數約二千餘に達した、彼等は各々各鄉村で保衛團に改編され皇軍の指導下昨日の匪賊は今日の良民保護警備隊に早變りしてゐる、其他曲沃南方の有力な匪賊三千五百名、寧陽附近の某々等何れも歸順を申出てゐるが、之等は魯西地區に在つて事實上抗日の積極的意思なく去就に迷つてゐる遊擊隊、敗殘兵、匪賊等に多大の影響を與へるものと見られてゐる、我が軍は飽く迄蠢動を續ける匪賊は斷乎討伐殲滅する方針であ

る。

日本軍の南支上陸攻略說に
戰々兢々たる南支狀況

去る六月十六日「サウス、チャイナ、モーニング、ポスト」紙上に「日本軍は近々廣東を占據す可く廣東のみならず粵漢鐵道竝に廣九鐵道をも其の手中に收む可し」との警告が掲載されてより、日本軍の南支上陸說は痛く民心を不安ならしめ、附けて加へて漢口方面の不安增大し、廣東に對する日本空軍の連日大爆擊の爲、南支各方面は極度の恐怖と混亂の狀態にあり、人民は連日各方面より殺到して香港其他安全地へ逃避してゐる模樣である。從つて蔣政權の南支防衛に對する不誠意を憤慨し蔣政權を怨嗟する者も多く、一般的和平解決を希ふ機運は濃化しつゝある。

一、我が制空下の廣東市

日本空軍の連續的大爆擊に廣東市は今や全く恐怖、混亂狀態を呈し、憲兵司令部其他機關も地下避難室の中にかくれ事務遲滯するのみで、余漢謀の如きも從化方面に避難し、一般市民の人心は極度に動搖し省政府に對する不信日に日に濃化してゐる。

漢口政府は豫期せざる日本軍の迅速巧妙なる機動作戰に遂に漢口放棄を決意し、一方多年抗日排日の巢窟たりし廣東も今や日本空軍の制壓下に在り國民政府は全面的崩壞を早めつゝあるが、廣東省幣も崩落に暴落を示し、一方第三國の支援的態度も內容之に伴はず、國民政府は、今や有名無實に等しく政府要人は其財產を早くも第三國の機關に移管し、家族を香港其他安全地帶に避難せしめつゝある。他面主として西南方面に反蔣氣分濃化し潛在的和平運動は日に表面化しつゝあり、殊に廣東に對する大爆擊に對し支那空軍は一機も姿を現はさず、日本空軍の完全なる制空は航空献金を政府が如何なる方法に使用したか疑惑を深め、漢口陷落し廣東が日本軍に占據せられたる場合に對する不安等より反蔣氣分に拍車をかけ、殊に廣東の人民は目前に始めて日本軍の威力を見せつけられ戰爭の慘禍を深刻に感じ、連敗の後に來るべきもの

を想像して全く意氣銷沈し、壯丁の離鄉禁止令、中山縣方面に於ける戒嚴令布告等は日本軍の同方面攻略短時日內にありとの豫想を一般に抱かしめ、流言蜚語の流布と相俟つて一層恐怖狀態を招いてゐる。

尙蔣介石が李宗仁を罷免したことは漢口政府と西南派の關係を益々危機に陷れるものと見られ、一方雲南省も昆明遷都に付ては日本軍空爆を恐れ之に反對して居り、廣西、雲南兩省に漢口政府分裂の兆を朶んで注目に値するものがある。

市內は先頃の空爆に新舊發電所が完全に爆破された爲酷暑の今日電扇、冷藏庫も使用出來ず電燈も當分點燈不可能となつた程で、一部特殊品以外は支那側と外人との取引も中絕し、市中商人の如きも殆んど避難し去りたる今日、不自由な戰時狀態下の危險を冒して滯留を續ける必要なしとて外人も續々引上げつゝあるとのことである。

二、南澳島占據後の汕頭

「南澳を占據した日本軍は六月二十三日南澳の對岸拓林を攻擊し海軍の掩護射擊の下に上陸せんとした」と云ふことが英字新聞により報道されて以來、汕頭方面に於ては流言蜚語による人民の動搖甚しく奧地、香港方面へ逃避するもの續出した。之に對し當局は周章狼狽して一般商人の避難を强制的に禁止し、一方食糧、鐵器類其他軍用に使用せらる可き物品の搬出は絕對に禁止する旨布告した程である。

香港支那總商會
斷乎献金拒否
—反蔣熱、益々表面化

香港の支那人總商會は過日常任委員會を開いて、來る八月十三日の上海戰火勃發記念献金運動に關し討議した所、其結果斷乎之れを否決し同時に廣東政府發行公債勸募香港事務所に對し總商會より事務所を貸與すべきか否かの問題についても同樣拒絕するに決したとのことであるが、之は七月二十八日朝香港日刊有力紙星報も報じ、大センセイションを捲起してゐる。總商會が斷乎として

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

此の處置を執るに至つた理由は報道されてゐないが、
一、蔣政權の南支防衛に對する不誠意を憤慨せる事
二、最近現在以上戰費の請求に應じられなくなつた事
三、蔣政權の抗戰に對し全く期待を失つた事
四、蔣政權の沒落に依つて西南獨立の急速實現を待望して居る事

等が擧げられてゐる。從來鬼角右顧左眄して居た彼等が斷乎反蔣決議を行ひ堂々その旨發表する事は、その半面に西南將僚及び一般民衆に潛在する反蔣反戰熱を物語るものとして極めて注目に値する。

入境稅二〇弗を拂はないと
香港には上陸させない

廣東に對する日本空軍の連日大爆擊、南支各方面に於ける日本軍上陸接近或ひは漢口方面不安のため避難民は連日各方面より殺到してゐるが、香港政廳に於ては無制限に避難民を收容し得べきかにつき、衛生、治安、社會、食糧、住居其他の見地より研究の結果、囊に差當り一人二〇弗の見せ金を要する入境制限を實施し之がため廣東、厦門、汕頭、福州、江門、梧州、澳門等指定港よりの避難民は幾分制限し得たが、之を更に强化し今回支那人に限らず何國人と雖も何れの港より來るものを論ぜず一律に入境稅二〇弗を要する旨布告した。

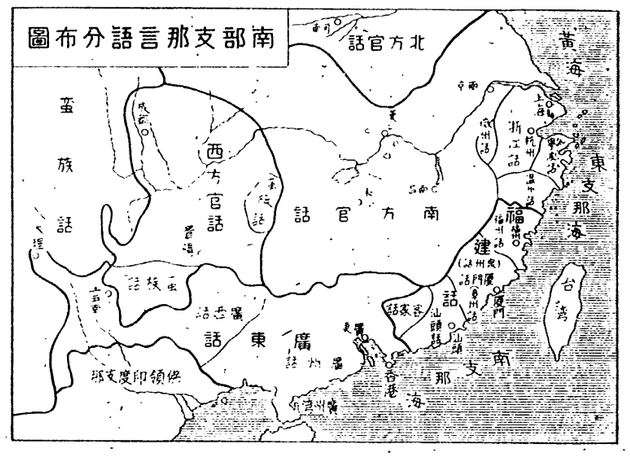
即ち何國人と雖も一定の職業を有せざる限り、一人當り二〇弗を所持せざるものは上陸禁止せらるゝことゝなつた。

日本に對する嫌がらせか
ソ聯、沈默を守る
張鼓峰事件の成行注目さる

張鼓峰事件に關してモスクワの諸新聞は批評を殊更避け單に外交々渉の經過を報ずるに止めてゐる爲此際ソ聯政府の眞意を打診することは至難であるが、當地の外國觀測者の間ではソ聯政府が本件を局地問題として取扱ひ國交の破綻を避けんと希望してゐると見られてゐる。

右見解は去る八月一日行はれた反戰記念日の示威運動に於ける諸種講演及び決議文の論調より觀て一般に支持されてゐる模樣である。尤も一部の論者は强硬なる言句を用ひたが他は一樣に「ソ聯は護國の爲戰ふべく決意してゐる」と云ふ程度にて激越なる口調を用ひてゐない。換言すれば演說に將又決議文等に現はれた字句は從來の同樣事件勃發の際使用されたものに比し過激なるものにあらず、本件に關するソ聯政府の公報は相當强硬なる語句を使用してゐるが、要するに局地問題として解決を希望してゐる事も明かである。

上述の如く尙外交的交渉の望斷絕しない事實より推しソ聯側は可及的交渉の進行を遲延せしめんとするが如く、日本軍をこの方面に牽制して對支援助の面子を保つ爲かゝる嫌がらせの態度をとつてゐるものと思はれる。



臨時情報部

七月十六日

1. 我が海軍航空隊は漢口及び蚌水を空襲又南支に於ては粵漢、廣九兩鐵路を破壞敵に多大の損害を與へたり。
2. 江蘇省東部揚子江北岸地區に於ける敵敗殘部隊は連日に亘る我が軍の猛擊に遂に完全に掃蕩せられたり。
3. 中支戰線に赫々たる武勳を樹てし川岸、中島中將歸還せり。
4. 蔣介石は先頃開かれたる國民參政會の席上「漢口はなほ三箇月間安全なり」と言明し人心安定に腐心する一方續々兵を集め南昌附近には既に二十數箇師集結し陣地を構築し居る模樣なり。

七月十七日

1. 我が軍は航空部隊と協力、板橋（彭澤南方）附近にて反擊の機を窺ふ敵敗殘部隊を殲滅せり。
2. 南京其他揚子江下流地方に於ける在留米國人の皇軍占領地域への復歸問題圓滿に解決せり。
3. ソ聯、軍艦にて兵力をポゼットに移動益々挑戰的態度に出でつゝあり。

七月十八日

1. **海の荒鷲の亂舞——航空戰史未曾有の快擧**
南昌を猛襲敵二十機を擊破せる外勇敢にも前古未曾有の敵中着陸の快擧を敢てし悠々殘餘の敵數機を燒却せり。
2. 中支戰線に活躍無敵皇軍の武威を輝かせし牛島中將歸還せり。
3. 豫てバルカン方面に旅行中の重光駐ソ大使は急遽モスクワに歸還今後の對ソ折衝に當ることゝなれり。
4. **張鼓峰事件解決のため滿鮮國境防衛當局に於ては煙秋ソ聯警備隊に軍使を派遣ソ聯兵の即時撤退を要求すると共に飽くまで誠意なき時は斷乎實力行使のやむなきことあるべしとの我方の嚴重なる決意を通告せり。**
5. **下村（駐哈外務特派員）クヅネオフ會談**にては滿洲國外務當局の嚴重抗議に對しソ聯側は何等の回答を示さず會談は事實上決裂に終れり。
6. 最近印度に於ては全印國民會議派の反英空氣濃厚となり再び不服從運動開始の狀勢にあり。
7. 英海軍陸戰隊員百二十名漢口に急行せり。

七月十九日

1. 海軍航空隊の活躍
爆擊箇所＝漢口—武昌—九江—南支粵漢線
2. 江上艦艇の一部は獅子山方面の敵陣地を猛砲擊せり。
3. 支那各戰線に輝かしき武勳を樹て歸還せる川岸、牛島、下元三中將並に天谷、黑岩、鈴木三少將は本日宮中に伺候天皇陸下に拜謁仰付けられたり。
4. **對ソ問題は現地交渉の結果に多くを期待し得ず一方ソ聯極東軍は逐次增强しつゝあるを以て滿鮮國境警備部隊はソ聯側の事態遲延策を嚴重に警戒しつゝあり。**

七月二十日

1. 畏くも皇后陸下に於かせられては野戰病院の傷病兵に御菓子を御下賜あらせられたり。
2. 我が海軍航空隊岳陽の敵艦船を攻擊二隻を擊破四隻を大破せしめたり。
3. 暴戾支那軍山西南部の戰鬪に於て遂に毒瓦斯を使用せり。
4. 對ソ問題—軍使未だ歸還せず。一方ソ聯の不逞行爲益々つのり重光、リトヴイノフ會見も遂に物別れの結果となれり。
5. 張鼓峰事件に關する哈爾賓交渉の結果滿洲外務當局は一應外交々渉を打切ることとし今後若し不幸

なる事態發生せば一切の責任はソ聯にあることを言明せり。

七月二十一日

1. 我が江上艦艇の一部は獅子山方面の敵陣地を猛爆又同航空隊は信陽驛、九江方面、南支粤漢線を爆撃せり。
2. 張鼓峰事件につき宇垣外相の參內、陸相の首相訪問、三相（首相外相蔵相）會議の開催等內外漸く緊張し來れり。
3. 支那に於ては漢口陥落を前に中央對廣西の空氣頓に惡化し李宗仁、白崇禧等の將領は廣西に歸還し保境安民に專念するに非ざるやゝ見らるゝに至れり。
4. 國民政府は漢口に殘留する軍政部以外の各行政機關に對し七月末までに重慶移轉（但し交通部は長沙）を完了するやう命令を發せり。

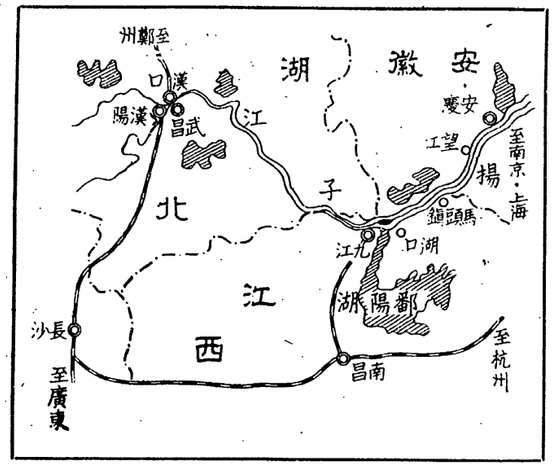
七月二十二日

1. 海の荒鷲の活躍

漢口、孝感、荊門、宜昌、長沙の各飛行場及び南支に於ては廣九、粤漢兩鐵路を痛烈に爆撃せり。
2. 張鼓峰一帶は依然無氣味な靜寂を續け居れり。
3. 支那側は最近粤漢鐵路に對する我が空襲を避けるため卑怯にも第三國人旅客の乘車せる列車にて軍需品を大量輸送しつゝあり。
4 滿洲國赤十字社創立せられ日滿協定調印式擧行せられたり。

七月二十三日

1. **我が無敵空軍の快勝！**
陸の快速奇襲部隊は大擧南昌を空襲、又海の神速攻擊部隊は長沙、九江並に廣東郊外の火藥廠を爆撃せり。
2. **九江攻略開始！**
陸軍部隊の鄱陽湖畔敵前上陸に呼應し江上艦艇も一齊に活動を開始せり。
3. 皇軍の猛進擊に危機愈々迫れる漢口は避難民の引揚にて物凄き混亂振りを現出し居れり。



七月二十四日

1. 我が海軍航空隊は粤漢線連江口附近及び英德南方の線路を切斷せる外沙口坪南方の鐵橋を破壞せり。
2. モスクワ各新聞は今回の張鼓峰事件に對しソ聯は事件を表面化することなき旨報道し居れり。

七月二十五日

1. 竹田宮大妃殿下の御仁慈—畏くも臺灣關係の戰傷病死者の遺族へ重ねて有難き御言葉と御菓子を賜りたり。
2. 我が陸軍部隊の東方よりの進擊に呼應し海軍陸戰隊は枇杷事址（九江西方一粁）に敵前上陸を決行し九江の敵を背後より制壓しつゝあり。

（以下次號）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

廣東語ニュース放送開始

—臺北放送局—

豫而臺北放送局より放送中の南支南洋向け海外放送の趣旨徹底を計る爲更に廣東方面支那人並同省出身南洋華僑を目標とする廣東語ニュースを八月八日より臺北放送局に於て左記の通り放送することゝなつた。

從來國民政府のデマ放送や殊更に事實を歪曲する外國通信に迷はされ帝國の眞意を解せず横暴極りない排日抗日を、廣東を中心として南洋各地に亘り敢てしてゐる廣東人をして事變の經過、戰況其の他に關し、正確迅速なる報道に依り誤れる認識を是正し、我が國の眞意を理解せしむる日も近きにあるであろう。斯くして廣東人の發展地たる南支南洋方面に對する我放送陣は益々強化されたものと云ふことが出來る。

記

一放送開始　昭和十三年八月八日

一發　局　臺北放送局

一放送時刻　毎日午後十一時三十五分より十五分間

追而十一時以後の放送時刻左の如く變更す

午後十一時　五　分より十五分間　英語ニュース

午後十一時二十分より十五分間　北京語ニュース

午後十一時三十五分より十五分間　廣東語ニュース

午後十一時五十分より十五分間　日本語ニュース

（終了午前零時五分）

一放送周波數　七五〇キロサイクル

九六三〇キロサイクル　一〇五三五キロサイクル

（以上同時放出）

臺灣總督府臨時情報部推薦映畫

昭和十三年八月九日印刷
昭和十三年八月十一日發行（月三回發行）

臺灣總督府臨時情報部

臺北市榮町二丁目十五番地
印刷人　加藤豐吉

臺北市京町一丁目四十三番地
印刷所　小塚本店印刷工場

臨時情報　昭和十二年九月二十日第三種郵便物認可
昭和十三年八月十一日發行（毎月一日、十一日、廿一日發行）第三十四號